

先見明言

「地域のものづくり企業は、世の中の変化に対応しながら、さまざまなチャレンジを行っている。こうした取り組みを広く発信し、新たなビジネスチャンスや新事業の展開につなげてもらいたいから。」

岡崎ものづくり推進協議会会長
田口 竜也氏
(たぐち・たつや)



「新規商談や新規成約、産学官連携につながる場になれば」と話す田口会長

技術力発信で新事業開拓

岡崎市、岡崎商工会議所、岡崎ものづくり推進協議会は7月13、14の両日、岡崎市高隆寺町の岡崎中央総合公園で企業展示会「第5回ものづくり岡崎フェア2016」を開催する。三河地域の製造業が出演し、最新の製品や技術をアピールする。新規取引先の開拓やビジネスマッチング、産学官連携などを促進する場になると期待されている。2日間で延べ7千人の来場を見込んでいる。ねらいや見どころを、主催者の同協議会の田口竜也会長に聞いた。

(聞き手・横井清)

「ものづくり岡崎フェアのねらいから。」

「三河地域最大規模のフェアとなる。」

「今回は展示会と講演会が見える、未来を創る」を

の2本立て。展示会は前回を上回る114社・機関が出演する。ものづくりに特化したフェアでは三河地域最大規模となる。製造業は99社、うち岡崎市内が66社。30社が初参加する。講演会は「次の100年へ 明日が見える、未来を創る」を

テーマに著名人4人が講演する。そのほか、岡崎市の100周年を記念して、同市内の食品メーカー6社による新商品展示、親善都市である福山商工会議所の企業8社を紹介するコーナーを新設する」

「各社がいち押ししの製品技術を提案する。今話題

ものづくりフェア 来月開催

の医療、航空機、ロボット、環境など次世代産業にかかわる展示が増えている。県内の工業系大学や公設試験研究機関も参加し、共同研究や委託研究などの成果を披露する」

「中小企業の活性化へ向け、協議会としての取り組みは。」

「技術力向上や販路開拓支援に力を入れている。企業の課題を抽出し、専門家の指導で課題解決をめざす。また、岡崎市の『ものづくり支援補助金』の活用も促す。新製品・新技術の開発、既存製品の高付加価値化に関する共同研究・依頼試験、見本市出展などが対象となる。同フェアを通じて、1社でも多くの商談につながることを期待している」